

play here *message*

小金井市では、インクルーシブデザインに配慮した遊び場及び菜園等を整備することにより、あらゆる子どもや保護者同士の相互理解の促進を図り、共生社会の実現に寄与することを目的とした「小金井みんなの公園プロジェクト」を進めています。その背景には、当事者の方々を含む地域住民の方々、そして行政職員の熱意による発意から、東京都において新たに創設された「子供の遊び場等整備事業補助金」の採択を受け事業化に至った経緯があります。

念願が叶った形ではあるものの、何を持って目的を達成したとするのか？何を成すべきなのか？という点においては慎重に検討を重ねていく必要があります。なぜならば、共生社会の実現に向けた遊び場等整備事業をハード整備のみに終始してはいけないと考えるからです。

人と関わるのが苦手だったり、からだが思うように動かなかったり。地域の公園で遊びたいと願っていても、それが叶いづらい子どもたちは残念ながら少なからず存在しています。それらの課題が、例えばインクルーシブデザインに配慮していたとしても、そのような遊具を設置さえすれば解決されるとは考えにくいものがあります。例えば、遊具らしい遊具が何もない原っぱのような空間であったとしても、そこを利用する人たちの心掛けが養われていさえすれば、遊び場の整備とも言える状況が訪れるかもしれません（本来、子どもたちは何もないところから遊びを生み出す創造性を発揮する存在であるはずです）。また、遊び場と言っても、遊具に終始せず、トイレや木陰やスロープといった基本的な環境の整備に不足がないか？という検討も欠かせないと考えます。

そのため、令和7年度以降の実際的な整備事業の推進に向けて、「大切にすべき考え方」「整備事業案の仮説」を立案し、それらをベースに、子どもたちを含む多くの方々との意見交換やヒアリングを通して、それらのコンセプトや計画の精度を高めていきたいと考えています。お力添えのほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

小金井みんなの公園プロジェクト「play here」メンバー一同

統括：岩佐健一郎（環境政策課長） プロジェクト担当：小林勢（環境政策課）、山崎寛之（経済課） ディレクター：熊井晃史（「とをが」主宰／「GAKU」事務局長／「東京学芸大子ども未来研究所」教育支援フェロー／「公民館のしあさって」編集） リサーチャー・建築計画・事務局：小野崎研郎、荒ひかり、平本圭（パシフィックコンサルタンツ株式会社）



play here

ここで遊ぼう。
なにげないけど大切な体験を重ねる。
ちょっとした気晴らしや息抜きをする。
約束なしに集うことができる。
思いも寄らない出会いがある。
身近な公園は、本来その舞台です。

ここで遊ぼう。
それを願えど叶わない子どもたちがいます。
人と関わるのが苦手。からだが思うように動かない。
だから、公園に行けない。行かない。
遊びたい気持ちをくじかれている子どもたちがいます。
でも、身近な公園は本来、誰にでもひらかれている場所です。

ここで遊ぼう。
人と関わるのが苦手。
でも、動物や昆虫や植物と関わるのが好き。
からだが思うように動かない。
でも、ここは躍動している。
遊びは、ものごとの多面的な捉え方をもたらしてくれます。

ここで遊ぼう。
これは、小金井を、誰もがその思いを実現できるまちに
していくためのプロジェクトです。

play here

未来というもののなかには、贈りもののようにして
生まれていくものがあるように思います。
だから、より良い未来というものは、
新しくて、どこかなんだか懐かしい。

ああ、あれはよかったな。
振り返ってみて腑に落ちる、大切にすべき体験。
形は変われど、想いは変わらず、引き継がれていくような経験。

playには、「遊び」以外にも「再生」という意味があります。
子どもたちのしあわせを想いながら、遊び場を整えていくことで、
この地域に根ざすおとなたちが、大切にしたいことを思い起こしていく。
play hereという言葉には、そのような願いも込められています。

わたしたちが呼び起こし、再生すべきこと。それはきっとたくさんあるはずです。